

令和6年度 第3回千曲市地域公共交通活性化協議会 会議概要

期 日：令和7年1月17日（金）午前10時00分～午前11時30分

場 所：千曲市役所301会議室

出席者：委員22名（5名欠席）、事務局3名

1. 会議事項

(1) 地域間幹線系統別確保維持計画変更案について

(事務局・長電バス株式会社 大石委員)

資料に基づいて説明

(柳沢委員)

輸送量目標値について変更があるようですが、当初計画の数値はどれぐらいだったでしょうか。

(大石委員)

当職計画では「22.1」でしたが、今回の変更で補助要件下限の「15.0」に変更となります。

(柳沢委員)

これ以上利用者が減ると補助金が出ない状況ということですが、地元の方、利用者の方にもそのあたりが伝わるとよいと思います。

(大石委員)

おっしゃるとおり補助要件の下限ギリギリのところで行っているような状況なので、今後、運行区間や運行車両の見直しなども検討していかなくてはいけない。機会があればお話しさせていただくのでよろしくお願いします。

(北村委員)

ガソリンなどの燃料が高騰していますが、軽油についても高騰しているのでしょうか。また、経営への影響はないのでしょうか。

(大石委員)

軽油においてもガソリン同様高騰しており、それに伴い運行費用も上昇しています。また、燃料以外の経費も高騰しているため、自主路線を含め3月に運賃改定を行わせていただく予定です。

また、屋代須坂線の運賃については基本的に鉄道から引き継いだ鉄道運賃を採用していますが、これについてもバス運賃への見直しを検討していかなくてはならないのではないかと考えています。その時が来ればお話しさせていただきたいと思います。

(滝沢議長)

それでは、会議事項(1)について承認される方は拍手をお願いします。

(賛成多数により承認)

(2) 千曲市デマンド型乗合タクシー実証運行案について

(事務局)

資料に基づいて説明

(柳沢委員)

事業を利用者に周知し、さらに浸透させていくという意味では延長には賛成です。ただし、また延長運行の期限が迫ってくると、この後はどうするのかという話になりますので、どのような状況になれば本格運行に移行するのか、あるいは元のバス運行に戻せるのか、あるいは違う移動支援を行うのかというようなことを、今後議論していただきたいと思います。

(事務局)

ご指摘のとおりで、今回延長をご承認いただいたとしても、令和7年度中に様々な事業を実施したり、運行実績を検証したりする中で、本格導入を検討する必要があると考えています。その際は、元のバスに戻せるのかということも課題になるかと思いますが、また他の政策で交通弱者の移動支援を検討することも必要になるかと思いますが、それらをふまえて検討してまいりたいと思います。

(新井委員)

東部エリアもそうだったように、デマンド型乗合タクシーの地域への浸透には時間がかかります。ですが、一度利用すると利便性が高いため、徐々に利用者が増えていく傾向にあります。今後も利用実績の推移などを検証し、時間をかけて事業を評価していただきたいと思います。

(事務局)

ご意見のとおり、実証運行すべてのエリアで利用件数は増加傾向にありますので、今後も利用実績をふまえて、検証していきたいと思います。

(新井委員)

デマンドタクシーの延長期限が令和8年4月19日までとなっていますが、鉄道のダイヤ改正が3月中旬に毎年行われていますので、バスやデマンドも鉄道との接続を視野に入れたスケジュールで今後改正を検討いただきたい。

(事務局)

時刻表作成などの事務を考慮したスケジュールで4月のダイヤ改正を行っていますが、ご意見いただいたスケジュールについても、今後検討してまいります。

(新井委員)

説明の中で、ドアツードアやエリアをまたいだ移動について要望が多いとありましたが、タクシー業界の現状としては、これ以上デマンドに車両や運転手を割くと、駅にタクシーがいなくなるなど、一般のタクシーへの弊害が懸念される状況です。業界としても人員体制については努力しなくてはならないのですが、現状ではなかなか難しいというところをご理解いただき、今後の政策を検討いただきたいと思います。

(事務局)

市としては、新井委員のおっしゃったタクシー業界の状況については理解しているつもりですが、要望の声がかなり多く、説明してもなかなかご理解いただけないケースもあるのが実状です。

今後、タクシー業界の状況も考慮しながら、協議会において将来的な運行体制を検討し、多くの皆さまに納得いただけるよう進めていきたいと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。

(守屋委員)

質問ですが、実証運行の延長期間について、必ず明確化しなくてはならないものなのでしょうか。また、先ほど話題になったダイヤ改正の時期についてですが、鉄道のダイヤ改正も毎年時期が決まっている訳ではなく、あらかじめ改正時期をお示しすることは難しいことをご承知おきいただきたいと思います。

(事務局)

運輸局への手続き上、延長期間は明確化する必要があると考えていますので、ご理解をお願いします。

(滝沢議長)

それでは、会議事項(2)について承認される方は拍手をお願いします。

(賛成多数により承認)

(3) 令和6年度ダイヤ改正(令和7年4月14日改正)案について

(事務局)

資料に基づいて説明

(新井委員)

ダイヤ改正案の説明に関連して気づいた点になりますが、先ほどの議題のデマンドタクシーの実証運行の延長案について、運行日の記載がありませんがよろしいのでしょうか。

(事務局)

運行日については現状と変更が無いので記載しておりませんが、運輸支局に提出するための協議調書には記載したいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

(上水委員)

バス停留所「八幡」の名称変更について、名称が長くなりますが、この停留所付近はバス停間の距離が短く、バス車内の音声案内が停留所間の運行中に間に合うのか心配です。

(事務局)

時刻表やバス停などの表記は、名所のPRのためにも案のとおりとしたいと思いますが、懸念されている点については、音声案内の原稿を工夫することで運行に支障が出ないよう対応したいと思います。

(堀口委員)

お話を聞いていると、事業者の視点がダイヤ改正に色濃く反映されているように感じます。利用者の要望や気持ちをもっと吸い上げた政策を検討していただきたい。

(事務局)

ダイヤ改正案については、実際に市や運行事業者に寄せられた利用者の声をできるだけ反映させられるよう作成しておりますが、より一層お客様の声をお聞きし、ニーズに沿った案を作成できるよう努めてまいります。

(柳沢委員)

おぼすて棚田・温泉便の改正内容について具体的に伺いたい。また、学校や病院などを目的地として、鉄道と乗り継ぐ方もいると思いますが、ダイヤを作成する際、乗り継ぎのための余裕時間はどのように考えているかお伺いします。

(事務局)

おぼすて棚田・温泉便につきまして、現状は路線の趣旨を観光便として位置付けているため、運行経路上の主要停留所のみを乗降可能として運行していますが、改正後は運行経路上のすべての停留所で乗降可能になります。具体的には20箇所を超える停留所が追加で乗降可能となりますので、大循環線が日曜運休になっていることもふまえ、休日の移動手段として、多くの市民の皆さまにご利用いただける路線になればと考えています。

続いて鉄道との接続時間の確保についての考え方ですが、バスから鉄道への接続についてはバスの遅延を念頭に10分程度、また、鉄道からバスについては3～4分程度を確保できるダイヤとなるよう努めています。ただし、すべての接続で条件を満たすことは現実的に困難ですので、朝夕の通勤通学時間帯の接続を優先するなど、利用者の生活への影響の大きさに配慮しながらダイヤを作成しております。

(小岩委員)

バス停留所の名称についてですが、現状「戸上中入口」となっているところを「戸倉上山田中学校入口」と正式名称に変更できないでしょうか。令和10年度の国民スポーツ大会の会場にもなっていることから、検討いただきたいと思います。

また、「稲荷山温泉前」については、建物の解体撤去も済んでいることから、別の名称に変更してもよいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

「戸上中入口」については、ご指摘のとおりですので、できるだけ早い時期に改称できるよう検討してまいります。また、「稲荷山温泉前」については、市としても改称を検討しましたが、跡地が開発途上ということもあり、地元の区長さんとも相談の上で、開発が完了する令和8年春のダイヤ改正時に再度検討しようということになりましたので、ご理解いただきたいと思います。

(春日委員)

バス停の維持管理についてはどのような形でやっているのでしょうか。

(事務局)

市が維持管理を行っていますが、市内に多数の停留所があるため、定期的に巡回などできていないのが現状です。問題のあるバス停について、市にご意見などが寄せられれば、現場を確認し、必要に応じて修繕など対応しております。

(北村委員)

民生委員として地域の高齢者の話を聞いていると、東部地区の昼間のバスが無いことについて不便であるとか、停留所が自宅から遠いから不便などの意見をよく聞きます。そういった声を拾い上げて政策をとってほしいと思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

昼間のバスが無いことについてですが、交通事業者の課題となっている運転手不足に対応するため、できるだけ重複して交通資源を供給することは避け、効率的な運行を行うための政策として、利用者の多い朝夕は大人数移動に適したバスを、少人数が移動する日中については、利用予約に応じて運行するデマンドタクシーを運行していますのでご理解いただきたいと思います。ただ、日中の移動需要が多ければ、デマンドよりもバスの方が適しているという可能性もありますので、日中の利用実績など、今後も詳しく見ていきたいと思っています。

また、バス停については区長さんや自治会長さんから具体的に地域要望という形で要望を出していただければ、必要性を精査した上で、バス停の新設についても検討いたしますので、地域でご検討いただきたいと思います。

(新井委員)

現在、冬季間において遠距離通学をしている小中学生に対して、バスの無料乗車券を交付するなどの対応を市で行っていると思いますが、姨捨線では状況によって定員を超過し、乗り切れずに増便対応しているケースが発生しています。今後は、冬季間のスクールバスなどについても検討していただきたいと思います。

(事務局)

遠距離通学している小中学生への支援については、教育委員会と連携して対応していますので、いただいた意見について検討していきたいと思っています。

(春日委員)

先ほど話題になったバス停の管理については、区や自治会にお願いしてもいいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

区・自治会と協議し、バス停の維持管理について協力が可能かどうか検討してまいります。

(滝沢議長)

それでは、会議事項（3）について承認される方は拍手をお願いします。

(賛成多数により承認)

2. 報告事項

(1) 令和6年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の一次評価について

(事務局)

資料に基づいて報告

以上